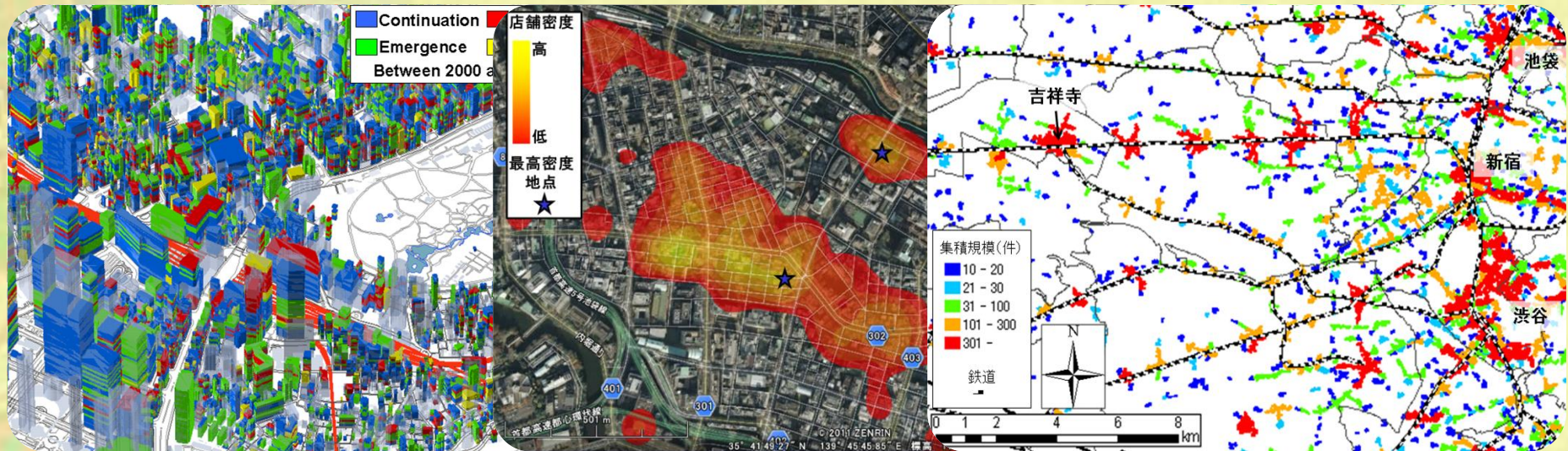


マイクロジオデータ研究会の紹介



マイクロジオデータ研究会 運営委員長
東京大学空間情報科学研究センター
秋山祐樹 (aki@iis.u-tokyo.ac.jp)

本研究会について ～設立の背景～

背景

今日、政府・地方自治体、大学・研究機関、民間企業をはじめとした様々な機関において、多種多様な空間データの収集・加工が実施されている。

多くの機関では国や地方自治体が作成した統計データを活用し、都市解析、計画立案等を実施。

国勢調査に代表される公的統計データの多くは、より極め細やかな都市地域計画・解析等への利用において多くの課題を残している。

- 例→ ・調査に要する膨大な作業量と時間
- ・プライバシーの問題

これらの制約により、データの更新頻度、集計単位の細かさに限界がある。

一方で・・・

様々なミクروسケールの非集計データ(マイクロジオデータ)が利用できる環境が整いつつある。

例

- ・高い空間的精度と網羅性をもつデジタルデータ
→住宅地図、デジタル電話帳 等
- ・加工余地が高い非集計データ
→パーソントリップデータ、モバイル統計 等

こうしたデータの利活用について、産官学における知識・技術の共有および協力体制の構築の場を設け、各機関の有するシーズ・ニーズを結びつける場を作る。

研究会の目的

次世代のGISデータのスタンダードを確立。産学官の研究者・データ保有者・データ利用者でアイデアを持ち寄る場とする。

- ・電話帳データ(例:タウンページ, テレポイントデータ)
- ・携帯電話データ(例:モバイル統計)
- ・住宅地図データ(例:ZmapTOWN II)
- ・Web個人データ(例:Facebook, Twitter)

等の最小単位の時空間データ(マイクロジオデータ)の取得・普及および研究方法の共有を行う。

マイクロジオデータとは

近年利活用が可能になり始めた、空間的、あるいは時間的な分解能が細かい時空間データのこと。

産学官の連携

研究者（主に学）

- ・データの借用・利用（データ保有者から）
- ・研究成果の発信共有

＜第1回研究会の参加者＞
東京大学、東京理科大学

Researcher

データ保有者（主に産官）

- ・データの加工技術の利用
- ・新しい利活用シーンの模索
- ・データの発信共有

＜第1回研究会の参加者＞
株式会社ゼンリン
株式会社ゼンリンデータコム

データ利用者（主に産官）

- ・データの利用（研究成果から）
- ・現状の課題の解決
- ・課題解決成果の発信・共有

＜第1回研究会の参加者＞
株式会社JPS
経済産業省中心市街地活性化室

共同研究

User

Data Holder

第1回マイクロジオデータ研究会

日時:2011年8月4日(木) 10:00~12:00

場所:東京大学本郷キャンパス工学部1号館4階406号室

参加者リスト

<学>

- ・東京大学 今井修先生、貞広幸雄先生
- ・東京理科大学 伊藤香織先生、稲坂晃義先生

<民>

- ・株式会社ゼンリン
- ・株式会社JPS
- ・株式会社ゼンリンデータコム

<官>

- ・経済産業省 中心市街地活性化室

研究者が自由にデータ利用できる環境の実現

- ・研究用途に限り、従来CSISとの共同研究で利用できたデータに加えて様々なマイクロジオデータを利用可能に。
- ・安定したデータ提供体制を構築。

既存の統計データに依存しない空間データの普及へ

- ・GIS研究者は最新の非集計データをキャッチアップ可能に。
- ・スマートフォン、ソーシャルネットワークの普及により個人単位の時空間データが出現。

マイクロジオデータの開発・活用方法の模索の場

- ・データ供給者はマイクロジオデータの利用方法を模索しており、両者のニーズが合致。
- ・現在必要とされているマイクロジオデータの調査が可能。
- ・データ利用者は既存データでは獲得し切れなかった詳細な時空間情報の利用が可能に。

研究会についてのお問い合わせ

- ・マイクロジオデータ研究会 運営委員長
東京大学 空間情報科学研究センター
特任研究員 秋山祐樹 (aki@iis.u-tokyo.ac.jp)
- ・マイクロジオデータ研究会 運営副委員長
東京大学大学院 新領域創成科学研究科
博士1年 仙石裕明 (xianshi@csis.u-tokyo.ac.jp)
- ・顧問
東京大学 空間情報科学研究センター
教授 柴崎亮介 (shiba@csis.u-tokyo.ac.jp)
- ・研究会ホームページ
<http://pittsburgh.csis.u-tokyo.ac.jp/wp/>